



## Topics / Insight

### 2017年8月の注目ディール: ソフトバンク・ビジョン・ファンドによる矢継ぎ早の投資

2017年9月13日

#### ソフトバンク・ビジョン・ファンドによる8月の投資案件

ソフトバンク・ビジョン・ファンド(SVF)は、本年5月に930億米ドル(10.4兆円)の出資コミットメントを集めて初回クロージングを完了させましたが、その後の勢いが止まりません。7月にAI企業のブレイン・コープ、インドア農業のプレんティへの出資を実行したことに続けて、8月にも3件の出資案件が明らかになっています。

まず、8月9日にはインド最大のEコマースマーケットプレイスのフリップカートがSVFから約25億米ドル(正式な調達額は未開示)を調達したことを発表しました。また、ロイヴァントサイエンスも同9日にSVFより11億米ドルを調達する旨発表しています。ロイヴァントサイエンスは、神経、女性内分泌疾患、皮膚、泌尿器科等複数の領域におけるこれまでにない治療法を開発・販売するベンチャーです。

更に、8月24日にはソフトバンクとSVFが、米国ウイワークに対して44億米ドルの出資をすることが明らかになりました。ウイワークは2010年にニューヨークで設立され、コワーキングスペースを世界中に展開して急成長しているベンチャー企業です。44億米ドルの内、30億米ドルはウイワーク本体に対する直接の出資であり、残りの14億ドルは中国、日本、韓国にそれぞれ設立される子会社に出資されます。

#### ソフトバンク・ビジョン・ファンドとは

SVFは、2016年10月にソフトバンク・グループの孫正義会長がサウジアラビア王国パブリック・インベストメント・ファンド(PIF)より最大450億米ドルに及ぶ出資の合意を取り付けたことを受けて設立されました。PIF以外には、ソフトバンクが280億米ドル、UAE アブダビ首長国のムバダラ開発公社が150億米ドルを出資する他、アップル、フォックスコム、クアルコム及びシャープ等がマイノリティの出資者として名を連ねました。半年以内に更に70億ドルの出資を獲得するとされており、これによって出資コミットメントの総額は、1,000億米ドルとなる見込みです。この10兆円超という資金規模は、コーポレート・ベンチャー・キャピタルとして、他に類を見ない圧倒的な規模と言って間違いありません。

投資対象は、次世代のイノベーションを引き起こす可能性のある企業やプラットフォーム・ビジネスとされています。具体的には、IoT、AI、ロボティクス、モバイルアプリケーション及びコンピューティング、計算生物学、フィンテック、クラウド、データ活用ビジネスその他幅広いテクノロジー分野の新興企業やスタートアップが対象です。その投資規模は、原則1億ドル以上が想定されていること



## Topics / Insight

から、将来が有望視されるテクノロジー企業はあまねく検討対象となると言ってよいでしょう。

### ソフトバンクからの移管によるポートフォリオの追加

昨年 10 月以降にソフトバンクが実施したベンチャー／スタートアップ企業に対する投資の一部は、投資委員会の承認を経て SVF に移管されます。当該投資対象の顔触れを見ると、エヌビディア(AI 向け GPU メーカー)、ワンウェブ(低軌道衛星による通信サービス)、ソーファイ(オンライン融資仲介サービス)、ガードントヘルス(AI による総合血液生体検査)、インプロバブル(VR)、ノート(自動運転)、OSIソフト(産業用 IoT)等、事業領域が非常に多彩で、かつ、ユニークであることに気がきます。ソフトバンクはこの他にもディディ(トランスポートプラットフォーム)、オラ(インドの配車プリ)、ペイティーエム(インドの電子決済スタートアップ)、カーページ(小企業に対するオンライン融資)等に投資をしており、このことからソフトバンクは投資ビークルを使い分けながら幅広くテクノロジー投資を展開していることが改めてわかります。

こうしたソフトバンクと SVF によるスタートアップ投資の勢いには、欧米の多くのベンチャーキャピタルもついていけないようです。バリュエーションも上昇するでしょう。SVF による豊富な資金力を武器とした常識はずれの展開に、有望なスタートアップの投資ラウンドに手が出せなくなるテクノロジーベンチャーファンドも出てくるかもしれません。

### ソフトバンク・グループの決算に与える影響

ソフトバンクは自らリミテッドパートナーとして SVF に出資をするほか、海外の 100%子会社がジェネラルパートナー(GP)としてファンドの運営に当たります。更に、ファンドの投資委員会はソフトバンクの他の英国 100%子会社に設置され、GP に対して投資に係る助言をする建付けとなっています。その結果、ソフトバンクは SVF に対する支配力を有するとみなされ、SVF はソフトバンクの連結対象となりました。ファンドが 50%超の議決権を有する SVF の投資先は、連結子会社としてソフトバンクの連結決算に取り込まれます。ソフトバンクはこれまでの大型買収で多額ののれんと有利子負債を抱えています。SVF を利用することにより有利子負債の増大は抑制されるものの、ベンチャー投資に伴うのれんの増加は止まらないでしょう。また、スタートアップ企業の赤字がソフトバンクの損益を直撃します。

巨額の軍資金を得たソフトバンクの積極的な M&A 経営から、目を離すことが出来ません。

### <問い合わせ先>

ベネディ・コンサルティング株式会社

Mail: [info@benediconsulting.jp](mailto:info@benediconsulting.jp)

Web site: <http://benediconsulting.jp>